

プチ講話

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

令和5年7月28日(金)

佐賀市立金立小学校 副島 和久



教師や学校がやるべきことは

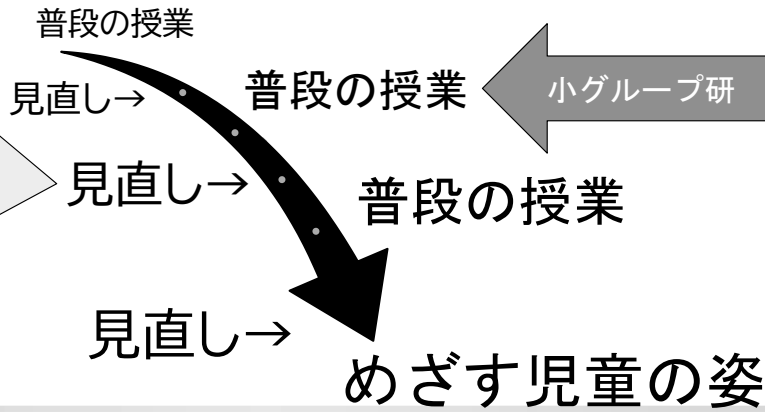
① 児童生徒に を明確にする。
めざす児童の姿

② その力が身に付くように「」の
視点から授業改善を図る。
授業づくりチェックシート

③ その力が身に付いたかどうかを し、指導等に生かす。
めざす児童の姿

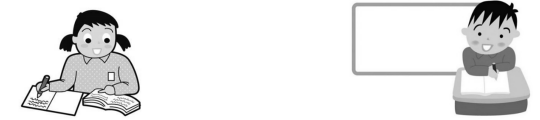
金立小学校 授業づくりチェックシートを用いた 普段の授業の不断の見直し

節目節目で
研究主任の
藤松先生から
チェック依頼が
ありますが、
それだけでなく、
普段から
自己チェックを
お願いします！



授業改善を図るために、教師に必要な要件は？

・それぞれの教科・領域において育成すべき資質・能力についての正しい理解
▣ 公教育である以上、拠り所は学習指導要領 自らの経験や信念だけでは×



・授業を見る目 児童を見る目
▣ 児童の学びの内実を見取ること 育成すべき資質・能力は身に付いているか？
▣ 児童の学びの内実を (自らの) 指導と関わらせて考えること



・授業改善の視点についての理解
▣ 主体的・対話的で深い学びの視点

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

4

「主体的な学び」とは

- ・興味・関心
- ・自己のキャリア形成との関連付け

→学習課題を生徒が「自分ごと」にする工夫 リアルな課題、課題発見

Ex. 生活との関連、児童の興味との関連、児童の疑問から、クイズ的要素、揺さぶり 等

見通し → 粘り強く取り組む → 振り返り → 次につなげる

単元レベルで 学習課題解決の意識 学んだことの価値や意味の自覚

題材レベルで small step

当然、1単位時間も



「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

5

「対話的な学び」とは

- ・子供同士の協働
- ・教職員や地域の人との対話
- ・先哲の考え方

手掛かりにして



自らの考えを広げ深めることができているか？

- 学習形態の工夫、教科の特質に応じた言語活動、ICTの効果的な活用
まとめ、振り返り、言語活動を促す学習集団づくり（支持的風土の醸成）



「主体的・対話的で深い学び」を実現する学習活動について考える際の3つのポイント

6

- ・モチベーション(意欲)・やることに必然性はあるのか
 - ・やりたいという意欲を喚起しているか
- ・スキル(技能)　　・やり方は分かってるのか
 - ・やり方について指導しているか
- ・コンテンツ(内容)　・生徒にとって魅力のある内容か
 - ・意味ある内容を準備しているか



キーワードは「やりたい、やれそう、やってよかった」

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

7

「深い学び」とは

- ・習得・活用・探究という学びの過程の中で



- ・各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせて



- ・知識を相互に関連付ける → より深く理解する
- ・情報を精査する → 考えを形成する
- ・問題を見いだす → 解決策を考える（問題発見・解決）
- ・思いや考えを基に → 創造する

→新たな問い　　問題解決的な学習から探究的な学習へ

